令和４年度大学図書館職員長期研修講義
「大学と大学図書館」

令和４年７月４日（於　筑波大学）

東北大学副学長（広報・ダイバーシティ担当）
附属図書館長
大学院医学系研究科 教授
大 隅　 典 子

1. 一歩前へ！：「転換契約」の顛末とこれから

東北大学附属図書館長としての任期が残り２年を切りました。６年間を１時間に換算するなら、時計の長針が 40 分を過ぎたということになります。昨年、本「大学図書館職員長期研修」で講義をさせていただいてから１年の間にも、多々の活動を行ってきましたが、もっとも大きなインパクトがあったことの１つは、Wiley 社と本学を含む４つの大学図書館との間で電子ジャーナルに関して「転換契約」を締結したことです。

電子ジャーナルの購読は、大手出版社との間では、“パッケージ”として一括契約することが多い状況です。研究者にとっては、自分の読みたいタイトルが（自分の図書館を介して）電子的に読めるかどうかに関心があります。一方、論文を世に出す際、オープンアクセス（OA）として出版するには、論文掲載料（APC）が必要です。前者の契約はこれまでより図書館が行っており、後者は個々の研究者が研究費等で支払うことになります。この状況を大学という単位で見た場合には、出版社に二重にお金を支払っていることになります。しかも、購読料も APC も毎年値上げ有りき、という状態が続いています。

この状態を打破するために今回、大手出版社と日本の大学図書館の間で初めて「転換契約」が行われました。すでにプレスリリース[1]をもとに、各種メディア記事[2]にも取り上げていただき、直近では岩波書店の『科学』という月刊誌のコラム「科学通信」にも「Wiley 社との「転換契約」締結――学術情報のコストは誰が払うのか？」[3]という記事を載せさせていただきました。さらに、本学附属図書館事務部長も、国立国会図書館の「カレントアウェアネス-E」に寄稿しました[4]。詳しくはこれらを参照いただきたいと思いますが、本講義で

は“ファーストペンギン”として海に飛び込んだ背景や理由、その後の状況についてお話ししたいと思います。いちばん強調したいことは、電子ジャーナルの問題は、図書館だけの問題ではなく、でも研究者だけの問題でもなく、皆が協力して国を挙げて取り組むべき課題であるということです。

2. 災害レジリエントな大学図書館へ

今年（2022 年）の 3 月 16 日の夜中、福島県沖を震源とする地震が発生しました。本学の位置する仙台市青葉区では震度 5 強を記録し、附属図書館でも大きな被害がありました。施設・設備の被害に加え、本館と 4 つの分館合わせて 383,000 冊の書籍が落下し、その一部が漏水により水損しました[5]。ちょうど約 1 年前にも同様の地震があり、その対応を行ったのですが、まるでシジフォスの岩のように、毎年、このレベルの地震の影響があるとすると、私たちは未来の図書館としての姿をもう一度、災害レジリエントであることを最低限必要な条件として考えるべきであると思われました。

例えば、どの程度の書籍・学術資料を開架として閲覧可能な状態にするのか、どのくらいの書籍を電子媒体として取り扱うべきかは、根本的に重要な課題です。また、実際にどの程度の書籍が電子媒体として利用可能かについては、図書館だけで対応できない問題でもあります。今回の地震でも、本学において免震構造であった建物はほとんど被害がなかったことを考えると、大学図書館のような重要な学術資料を収蔵している図書館は、今後、順次、免震化していくことが理想と思われます。もちろん、書籍が落ちにくい書架の導入等の工夫や、避難の導線を確保した配置への配慮も必要です。新型コロナウイルス感染症の脅威が去ったとしても、また別の新興感染症がパンデミックとなる可能性は十分に考えられる中、図書館としてどのように人々が集うフィジカルな空間を提供していくのが良いのか、多様な専門家の間で議論していくことが必要ではないでしょうか？

3. オープンサイエンス推進と論文の引用数増加

学術情報がディジタル化され、インターネットを介して拡散する過程で、そのデータを研究者個人や研究組織の研究力の判定に利用する動きが、あっという間に広がりました。ちょうど本講義要綱を執筆するこの時期に Times Higher Education（THE）が Asia University Rankings を発表するのですが[6]、この指標の中には“citation（論文引用）”が含まれています。日本の大学では、東京大

学が第 6 位（昨年と同位)、京都大学が第 12 位（昨年は第 10 位)、そして我が東北大学は同率第 31 位（昨年は第 27 位）となっており、日本の大学は他のアジアの高ランク大学よりも、引用のスコアが非常に悪いという特徴があります。

この理由として、例えば Nature Asia の記事によれば、2021 年までの時点で、OA 論文出版の割合は、アメリカ合衆国 (15%)、中国 (15%)、英国 (7%)、ドイツ（7%)、日本（5%）となっており [7]、日本からの OA 論文の割合が他国よりも少ないことが考えられます。

また、日本の研究者は論文を出版するところまで（あるいは最近では「プレスリリース」を出すところまで）尽力するのですが、他国の研究者ほどには自分でその“宣伝”をしない傾向があります。インターネットとディジタルが中心となる世界において、Twitter や Facebook、LinkedIn 等、自らが無料で発信できる媒体があるにも関わらず、SNS での発信を避ける日本人は多いように思います (逆に、匿名アカウントからの心無い発言等は多数あるのですが……)。このような傾向が日本の研究者の論文が相対的に引用されにくくなることに繋がっているのではないでしょうか。本講師は図書館長とともに広報担当の副学長として本学からの発信を追いかけているので、広報室が手間暇かけて行ったプレスリリースを依頼者が何もツイートしない様子を悲しい思いで見つめています。

THE やその他のランキングだけで、大学等の研究機関の実力すべてを測れるものではありませんし、ランキングの根拠には数値化されない“reputation”が含まれる場合もありますが、研究者が（多くの場合、税金をもとに）行った自分の研究成果を発信し、広める努力を惜しむことは、やはり“reputation”の低迷を招くでしょう。

4. 多様なステークホルダーとの協働

デジタル化とインターネット活用により、大学図書館にとってのステークホルダーは、学生、教職員、地域住民だけでなく、さらに広がることになりました。デジタルアーカイブとして公開することにより、時空を越えてさらに広い人々が貴重な学術資料に触れることが可能となりつつあります。本館では国文学研究資料館との連携により、「狩野文庫」等のデジタルアーカイブを進め、同資料館の「新日本古典籍総合データベース」から、現在 16,938 点を公開しています。また、「漱石文庫」も、2019 年のクラウドファンディングにおける多数の一般市民からのご寄附により、793 点の自筆資料の公開に至りました。

今後、大学図書館の役割として、多様なステークホルダーに対応することはきわめて重要と考えられます。同時に、そのような対応のためには、これまで以上に多様なスキルを持った人材が大学図書館に必要といえるでしょう。

References:

1) 東北大学. 東北大学・東京工業大学・総合研究大学院大学・東京理科大学と Wiley、日本発の研究成果のオープンアクセス化の促進に関する覚書に署名. 2022-02-08. https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2022/02/press20220208-01-Axess.html
2) 論文オープン化で世界に発信：東北大など大手出版と合意. 日本経済新聞. 2022-03-09. https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCD018NZ0R00C22A3000000/
※このほか、日刊工業新聞、科学新聞など
3) 大隅典子. Wiley 社との「転換契約」締結：学術情報のコストは誰が払うのか？. 科学. 2022-06, 92(6), p.507-510.
※2022 年 7 月以降、「東北大学機関リポジトリ（TOUR)」で公開予定
4) 小陳左和子. 4 大学と Wiley 社との電子ジャーナル転換契約の締結(仮題). カレントアウェアネス-E. 2022-06-23（予定）.
5) 東北大学附属図書館. 東北大学附属図書館における福島県沖地震(2022 年)対応記録. 2022-03-25. http://www.library.tohoku.ac.jp/news/2021/TUL_EQ20220316report1.html
6) Times Higher Education. Asia University Rankings 2022: results announced https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/asia-university-rankings-2022-results-announced
7) シュプリンガー・ネイチャー、100 万本のオープンアクセス論文を出版し、大きな節目を迎える. Nature Asia. 2021-12-02. https://www.natureasia.com/ja-jp/info/press-releases/detail/8876